

写真に写っているのは、北軽井沢の軒下に円網を張っていたクモです。撮影は七月中旬で、外見の特徴や生息環境から、ヤマオニグモである可能性が高いと考えられます。ただし、ヤマオニグモは近縁種との識別が難しいことで知られ、腹面の模様や細かな形態を確認しないと確実な同定はできません。それでも、黒褐色の腹部に入る葉状の模様や、黄白色と黒色が交互に現れる脚の縞模様は、本種の特徴によく一致しています。標高の高い森林やその周辺に多いことから、北軽井沢という環境は生息地としてよく合っています。

ヤマオニグモはコガネグモ科に属する大型の円網性のクモで、昆虫を捕らえるために精巧な円網を張ります。夕方から夜にかけて新しい網を作り、翌朝には古い網を取り除いてしまうことが多く、毎日巣が新しくなったように見えるのも、この仲間ならではの習性です。回収した糸は自ら食べて再利用し、貴重なタンパク質を無駄なく生かしています。網にはハエやガ、カメムシなどさまざまな昆虫がかかり、待ち伏せ型の狩りによって効率よく餌を確保しています。

クモというと苦手を感じる人も少なくありませんが、ヤマオニグモは人に危害を加えることはほとんどなく、庭や建物の周囲で害虫となる昆虫を捕食する頼もしい存在でもあります。毎晩ほぼ同じ場所に新しい円網を張り直す姿を観察していると、小さな体で驚くほど緻密な仕事を繰り返していることが分かります。北軽井沢の豊かな自然の中で、静かに昆虫たちを待ち受けるこのクモは、身近でありながら野生の巧みな生態を教えてくれる興味深い生き物だといえるでしょう。

(2026 年 7 月中旬／北軽井沢)

